

中年未婚者の生活実態と老後への備えに関する分析

—「単身世帯」と「親と同居する世帯」の比較—

2022 年 2 月 7 日

みずほリサーチ&テクノロジーズ主席研究員／日本福祉大学教授 藤森 克彦

問題意識¹

90 年代以降、中高年の未婚化が進展している。中年未婚者は、配偶者がいないので、従来のような男女の役割分担によって生活上のリスクに対応していくことが難しい。また、中年未婚者は、配偶者だけでなく、子どももいないことが考えられるので、老後を家族に頼ることが一層困難になることが懸念される。

そこで、40 代と 50 代の中年未婚者を「親と同居する世帯に属する者」と「単身世帯に属する者」に分けて、下記の 3 点を考察していく。

- ①「単身世帯」と「親と同居する世帯」では、基本属性や生活実態について、どのような差異があるのか。
- ②中年未婚者の親と同居する規定要因は何か。
- ③「単身世帯」と「親と同居する世帯」では、高齢期への備えについて、どのような差異があるのか。

1. 中年未婚者の増加状況

(図表 1) 40 代と 50 代の未婚者の増加—「単身世帯」と「親と同居世帯」の比較

(単位：万人)

	総数			男性			女性		
	1995 年	2015 年	倍数	1995 年	2015 年	倍数	1995 年	2015 年	倍数
40 代・50 代人口(①)	3650	3423	0.94	1818.4	1719.7	0.95	1831.6	1703.7	0.93
うち未婚者(②)	277	650	2.34	180.3	404.8	2.24	96.9	245.3	2.53
(②/①)	7.6%	19.0%	—	9.9%	23.5%	—	5.3%	14.4%	—
うち親と同居(③)	113	341	3.02	74.0	211.7	2.86	38.6	128.8	3.33
(③/②)	40.6%	52.4%	—	41.0%	52.3%	—	39.9%	52.5%	—
うち単身世帯(④)	121	269	2.23	81.3	177.8	2.19	39.3	91.1	2.32
(④/②)	43.5%	41.4%	—	45.1%	43.9%	—	40.5%	37.1%	—

(注) 1. 2015 年の 40 代・50 代人口は、年齢不詳と配偶関係不詳を案分しているため、『平成 27 (2015) 年国勢調査』の数値とは一致しない。一方、2015 年の「未婚者」「親と同居」「単身世帯」については、年齢不詳が掲載されていないため、配偶関係不詳のみ案分した。

2. 「未婚者」には、「親と同居」「単身世帯」の他に、「兄弟姉妹との同居」なども考えられる。このため、各年度の未婚者に占める「親と同居」と「単身世帯」の構成比を合算しても、100%にならない。

3. 年齢階層別に「親と同居する未婚の子供数」を把握できるようになったのは、1995 年の『国勢調査』からである。そこで、上記では直近の『国勢調査』である 2015 年と 1995 年を比較した。

(資料) 総務省『平成 27 年国勢調査 世帯構造等基本集計』(第 40 表)、同『平成 27 年国勢調査 人口等基本集計』(第 6 表)、同『国勢調査時系列データ』(第 4 表)、同『平成 7 年国勢調査 特別集計』(第 9 表)、同『平成 7 年国勢調査 第 1 次基本集計 全国編』により、筆者作成。

¹ 本発表は、藤森克彦 (2021) 「中年未婚者の生活実態と老後への備えに関する分析—「単身世帯」と「親と同居する世帯」の比較」(『年金研究』公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構, 15:52-76) に基づく。

2. 調査対象と使用するデータ

(1) 使用するデータ

公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) 『独身者 (40～60 代前半) の老後設計ニーズに関する調査』

- ・調査対象者：40～64 歳の未婚男女 2500 人 (男性：1250 人、女性：1250 人)
(注)「未婚者」は、異性 (パートナー) と同居している人を含まない。
- ・調査対象地域：全国
- ・調査形態：インターネット調査
- ・調査実施時期：2020 年 6 月 22 日～6 月 23 日

(2) 本研究の調査対象

- ・40 代と 50 代の未婚者 2,220 人 (男性 1096 人、女性 1124 人)
- ・さらに、40 代・50 代の未婚者のうち「単身世帯」あるいは「親同居世帯」に絞ると、調査対象となる標本数は 2,147 サンプルとなる (図表 2)。

(図表 2) 本稿が用いる 40 代・50 代の未婚者の使用標本の分布

	使用した標本数 (構成比)
単身男性	495 (22.3%)
単身女性	463 (20.9%)
親同居男性	585 (26.4%)
親同居女性	604 (27.2%)
合計	2,147 (100%)

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) により、筆者作成。

3. 中年未婚者の基本属性と生活実態

(1) 基本属性

(図表 3) 中年未婚者の基本属性

	年齢階層		最終学歴				家族等の要介護者		主観的健康		合計
	40 代	50 代	中学校	高等学校	短大・専修学校	大学・大学院	いる (いた)	いない (いなかった)	健康	不健康	
単身男性	283 57.2%	212 42.8%	22 4.4%	141 28.5%	63 12.7%	269 54.3%	60 12.1%	435 87.9%	434 87.7%	61 12.3%	495 100.0%
単身女性	285 61.6%	178 38.4%	16 3.5%	125 27.0%	153 33.0%	169 36.5%	87 18.8%	376 81.2%	418 90.3%	45 9.7%	463 100.0%
親同居男性	408 69.7%	177 30.3%	20 3.4%	178 30.4%	103 17.6%	284 48.5%	139 23.8%	446 76.2%	504 86.2%	81 13.8%	585 100.0%
親同居女性	439 72.7%	165 27.3%	7 1.2%	196 32.5%	210 34.8%	191 31.6%	156 25.8%	448 74.2%	526 87.1%	78 12.9%	604 100.0%
合計	1415 65.9%	732 34.1%	65 3.0%	640 29.8%	529 24.6%	913 42.5%	442 20.6%	1705 79.4%	1882 87.7%	265 12.3%	2147 100.0%
	p<0.001		p<0.001				p<0.001		n.s.		

(注)「主観的健康」における「健康」は、「非常に健康」「まあ健康」「注意する点はあるが、日常生活に支障ない」の合計。「不健康」は、「注意すべき点があり、日常生活に支障がある」「病気がち、療養中」の合計。

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) により、筆者作成。

(2) 親と同居する世帯

(図表4) 親と同居する中年未婚者の同居者

	本人と両親のみ同居世帯 (3人世帯)	本人と片親のみ同居世帯 (2人世帯)	本人と親と兄弟姉妹	本人と親と祖父母のみ同居	その他	合計
親同居 男性	235 40.2%	189 32.3%	132 22.6%	9 1.5%	20 3.4%	585 100.0%
親同居 女性	241 39.9%	183 30.3%	153 25.3%	6 1.0%	21 3.5%	604 100.0%
合計	476 40.0%	372 31.3%	285 24.0%	15 1.3%	41 3.4%	1189 100.0%

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) により、筆者作成。

(3) 経済状況

(図表5) 本人の年収階層—仕事と仕事以外の収入の合計

	100万円以下	100万～200万円未満	200万～300万円未満	300万～400万円未満	400万～500万円未満	500万～750万円未満	750万～1000万円未満	1000万円以上	合計
単身男性	52 11.4%	37 8.1%	57 12.5%	56 12.3%	53 11.6%	106 23.2%	41 9.0%	55 12.0%	457 100%
単身女性	33 7.6%	57 13.2%	95 21.9%	87 20.1%	46 10.6%	65 15.0%	26 6.0%	24 5.5%	433 100%
親同居 男性	106 19.8%	53 9.9%	81 15.1%	84 15.7%	68 12.7%	104 19.4%	25 4.7%	15 2.8%	536 100%
親同居 女性	152 26.3%	93 16.1%	93 16.1%	72 12.4%	64 11.1%	69 11.9%	21 3.6%	15 2.6%	579 100%
合計	343 17.1%	240 12.0%	326 16.3%	299 14.9%	231 11.5%	344 17.2%	113 5.6%	109 5.4%	2005 100%

(注) 1. $p < 0.001$

2. 「過去1年間の収入はどのくらいか」に対する回答。

3. 「年収」は、「仕事から得られる年収」と「仕事以外から得られる年収」の合計。

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構(2020) により、筆者作成。

(図表6) 親と同居する中年未婚世帯における生計維持の中心者

	本人	親		兄弟姉妹	親族・友人・その他	合計	
		父親	母親				
親同居 男性	276 47.2%	292 49.9%	202 34.5%	90 15.4%	17 2.9%	0 0.0%	585 100.0%
親同居 女性	149 24.7%	413 68.4%	281 46.5%	132 21.9%	40 6.6%	2 0.3%	604 100.0%
合計	425 35.7%	705 59.3%	483 40.6%	222 18.7%	57 4.8%	2 0.2%	1189 100.0%

(注) $p < 0.001$ 。

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構(2020) により、筆者作成。

(4) 就業状況

(図表7) 従業上の地位

	正社員	非正規社員	自営業・ 家族従業員	自由業・ 内職	無職	その他	合計
単身男性	272 54.9%	72 14.5%	34 6.9%	26 5.3%	80 16.2%	11 2.2%	495 100.0%
単身女性	208 44.9%	134 28.9%	16 3.5%	28 6.0%	70 15.1%	7 1.5%	463 100.0%
親同居男性	253 43.2%	104 17.8%	61 10.4%	27 4.6%	121 20.7%	19 3.2%	585 100.0%
親同居女性	217 35.9%	190 31.5%	19 3.1%	33 5.5%	143 23.7%	2 0.3%	604 100.0%
合計	950 44.2%	500 23.3%	130 6.1%	114 5.3%	414 19.3%	39 1.8%	2147 100.0%

(注) 1. $p < 0.001$

2. 「非正規社員」は、「パート」「アルバイト」「契約社員・嘱託」「派遣社員」の合計。「その他」は、「経営者・役員」「その他」の合計。

(資料) (公財)年金シニアプラン総合研究機構(2020)により、筆者作成。

(図表8) 無職の理由

	病気、けが、 障害のため	自分が仕事に 就かなくても生活 できるから	求職中 (職業訓練中)	希望する仕事に 就けないから	親などの介護で 手が離せないから	家事等で手が 離せないから	その他
単身男性 (n=80)	27 33.8%	29 36.3%	16 20.0%	15 18.8%	2 2.5%	1 1.3%	2 2.5%
単身女性 (n=69)	27 39.1%	9 13.0%	21 30.4%	12 17.4%	3 4.3%	3 4.3%	5 7.2%
親同居男性 (n=121)	60 49.6%	29 24.0%	19 15.7%	20 16.5%	11 9.1%	8 6.6%	3 2.5%
親同居女性 (n=143)	63 44.1%	29 20.3%	17 11.9%	20 14.0%	29 20.3%	22 15.4%	3 2.1%
合計 (n=413)	177 42.9%	96 23.2%	73 17.7%	67 16.2%	45 10.9%	34 8.2%	13 3.1%
p 値	n.s.	$p < 0.01$	$p < 0.01$	n.s.	$p < 0.001$	$p < 0.01$	n.s.

(注) 1. 調査対象は無職者。 2. 選択肢ごとに、無職の理由と回答した人の割合を表示。複数回答可。

(資料) (公財)年金シニアプラン総合研究機構(2020)により、筆者作成。

(5) 住居の形態

(図表9) 住居の形態

	親の持ち家	借家	本人の持ち家	その他	合計
単身男性	23 4.6%	313 63.2%	154 31.1%	5 1.0%	495 100.0%
単身女性	20 4.3%	329 71.1%	108 23.3%	6 1.3%	463 100.0%
親同居 男性	389 66.5%	75 12.8%	111 19.0%	10 1.7%	585 100.0%
親同居 女性	453 75.0%	77 12.7%	59 9.8%	15 2.5%	604 100.0%
合計	885 41.2%	794 37.0%	432 20.1%	36 1.7%	2147 100.0%

(注) 1. $p < 0.001$ 、2. 全ての回答者を対象。単一回答。

(資料) (公財)年金シニアプラン総合研究機構(2020)により、筆者作成。

(6) 現在、「頼りにできる人」の有無

(図表 10) 現在、いざという時に経済援助をしてくれる人

	特に いない	母親	父親	兄弟 姉妹	恋人	友人	その他 親族	その他	地域・ 近隣の 人	職場の 同僚	合計
単身男性	380 76.8%	42 8.5%	38 7.7%	23 4.6%	3 0.6%	7 1.4%	1 0.2%	0 0.0%	1 0.2%	0 0.0%	495 100.0%
単身女性	252 54.4%	69 14.9%	77 16.6%	47 10.2%	7 1.5%	7 1.5%	2 0.4%	1 0.2%	0 0.0%	1 0.2%	463 100.0%
親同居 男性	269 46.0%	139 23.8%	152 26.0%	19 3.2%	1 0.2%	0 0.0%	3 0.5%	1 0.2%	0 0.0%	1 0.2%	585 100.0%
親同居 女性	160 26.5%	213 35.3%	186 30.8%	35 5.8%	2 0.3%	2 0.3%	6 1.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	604 100.0%
合計	1061 49.4%	463 21.6%	453 21.1%	124 5.8%	13 0.6%	16 0.7%	12 0.6%	2 0.1%	1 0.0%	2 0.1%	2147 100.0%

(注) 1. $p < 0.001$ 、2. 単一回答。

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) により、筆者作成。

(図表 11) 現在、病気のとくに看護・家事をしてくれる人

	特に いない	母親	兄弟 姉妹	恋人	友人	父親	その他 親族	地域・ 近隣の 人	職場の 同僚	その他	合計
単身男性	402 81.2%	39 7.9%	13 2.6%	15 3.0%	9 1.8%	10 2.0%	3 0.6%	1 0.2%	3 0.6%	0 0.0%	495 100.0%
単身女性	287 62.0%	73 15.8%	13 2.8%	55 11.9%	11 2.4%	21 4.5%	2 0.4%	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	463 100.0%
親同居 男性	260 44.4%	250 42.7%	37 6.3%	27 4.6%	7 1.2%	1 0.2%	2 0.3%	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	585 100.0%
親同居 女性	160 26.5%	331 54.8%	45 7.5%	56 9.3%	4 0.7%	4 0.7%	3 0.5%	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	604 100.0%
合計	1109 51.7%	693 32.3%	108 5.0%	153 7.1%	31 1.4%	36 1.7%	10 0.5%	4 0.2%	3 0.1%	0 0.0%	2147 100.0%

(注) 1. $p < 0.001$ 、2. 単一回答。

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) により、筆者作成。

(図表 12) 現在、悩みを聞いてくれる人

	特に いない	母親	友人	兄弟 姉妹	恋人	職場の 同僚	父親	その他	その他 親族	地域・ 近隣の 人	合計
単身男性	376 76.0%	25 5.1%	44 8.9%	16 3.2%	9 1.8%	8 1.6%	11 2.2%	2 0.4%	3 0.6%	1 0.2%	495 100.0%
単身女性	213 46.0%	39 8.4%	130 28.1%	39 8.4%	24 5.2%	4 0.9%	8 1.7%	3 0.6%	0 0.0%	3 0.6%	463 100.0%
親同居 男性	331 56.6%	112 19.1%	55 9.4%	36 6.2%	10 1.7%	6 1.0%	32 5.5%	2 0.3%	1 0.2%	0 0.0%	585 100.0%
親同居 女性	200 33.1%	178 29.5%	110 18.2%	65 10.8%	15 2.5%	8 1.3%	19 3.1%	5 0.8%	4 0.7%	0 0.0%	604 100.0%
合計	1120 52.2%	354 16.5%	339 15.8%	156 7.3%	58 2.7%	26 1.2%	70 3.3%	12 0.6%	8 0.4%	4 0.2%	2147 100.0%

(注) 1. $p < 0.001$ 、2. 単一回答。

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) により、筆者作成。

＜中年未婚者の生活実態のまとめ＞

- ・本人年収を比べると、親同居世帯では、単身世帯よりも低所得者の比率が高い。
- ・親同居世帯の5割以上が、親が「生計維持の中心者」となっていて、親との同居によって生活上のリスクに対応している面がある。特に、低所得の親同居世帯では、親が生計維持の中心者となる傾向が強い。⇒親亡き後の生活不安
- ・親同居女性では、無職の理由として「親の介護」をあげる人が2割程度いる。
- ・単身世帯は借家住まいの比率が高い。⇒高齢期の家賃負担が重くなる懸念。
- ・単身世帯では、経済的援助や病気の看病について「現在、頼れる人がいない」と回答する人の比率が高い。一方、親同居世帯は、同居する親が「頼れる人」になっている。

4. 中年未婚者が親と同居する規定要因

(1) 同居の理由

(図表 13) 親と同居する中年未婚者の同居理由

	子供の頃から同居	自分の生活費の節約	自分の所得では生活困難	親族としての義務	同居者の身の回りの世話のため	同居者を金銭的に援助	自分の健康問題	家事や身の回りの世話を期待	自分の仕事の都合	介護のため	親の健保の扶養になる	その他
親同居男性 (n=585)	218 37.3%	184 31.5%	133 22.7%	118 20.2%	100 17.1%	87 14.9%	62 10.6%	68 11.6%	76 13.0%	64 10.9%	29 5.0%	3 0.5%
親同居女性 (n=604)	313 51.8%	166 27.5%	201 33.3%	88 14.6%	102 16.9%	56 9.3%	80 13.2%	71 11.8%	53 8.8%	63 10.4%	34 5.6%	6 1.0%
合計 (n=1189)	531 44.7%	350 29.4%	334 28.1%	206 17.3%	202 17.0%	143 12.0%	142 11.9%	139 11.7%	129 10.8%	127 10.7%	63 5.3%	9 0.8%
p 値	p<0.001	n. s.	p<0.001	p<0.05	n. s.	p<0.01	n. s.	n. s.	p<0.05	n. s.	n. s.	n. s.

(注) 複数回答可。

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) により、筆者作成。

(2) ロジスティック回帰分析

- ・中年未婚者を男女に分けた上で、親同居世帯を1、それ以外の世帯（単身世帯）を0とする二値変数を被説明変数とするロジスティック回帰分析を行なった。

(図表 14) 男女別にみた中年未婚者が親と同居することの規定要因

		男性			女性		
		回帰係数	オッズ比		回帰係数	オッズ比	
年齢		-0.051	0.950	**	-0.049	0.952	*
学歴	中卒ダミー	-0.301	0.740	-	-1.732	0.177	*
	高卒ダミー	-0.218	0.804	-	0.271	1.311	-
	大学・大学院卒ダミー	-0.419	0.658	-	-0.483	0.617	*
健康状態	不健康ダミー	-0.362	0.696	-	-0.035	0.965	-
要介護者	要介護者いる(いた)ダミー	1.065	2.900	***	0.519	1.680	*
本人の年収階層	100万円未満ダミー	1.333	3.791	***	1.135	3.111	**
	100万~200万円未満ダミー	0.851	2.343	*	0.478	1.613	-
	200万~300万円未満ダミー	1.135	3.112	**	-0.139	0.870	-
	300万~400万円未満ダミー	1.134	3.108	***	0.162	1.175	-
	400万~500万円未満ダミー	0.991	2.694	**	0.590	1.805	-
	500万~750万円未満ダミー	0.772	2.163	*	0.389	1.475	-
住居の所有形態	本人持ち家ダミー	-2.831	0.059	***	-3.530	0.029	***
	借家ダミー	-4.254	0.014	***	-4.523	0.011	***
定数		4.426	83.573	***	5.054	156.722	***
N		979			994		
Nagelkerke R2 乗		0.577			0.646		
尤度比のカイ二乗検定		797.690a			706.649a		

(注) 1. リファレンスグループは、短大・専修学校卒、年収750万円以上、親の持ち家。

2. *** p<0.001 ** p<0.01 * p<0.05

(資料) (公財)年金シニアプラン総合研究機構(2020)により、筆者作成。

<中年未婚者が親と同居することの規定要因>

- ・ 中年未婚者が親と同居することに正の影響をもたらす要因をみると、男女ともに、家族等に要介護者がいる(いた)こと、低所得層であることがあげられる。
- ・ 一方、年齢が高いことや、借家や本人の持ち家に住むことは、負の影響をもたらす要因となる。
- ・ 男女で異なる規定要因の一つとして、男性では、低所得層・中所得層であることは、親との同居に正の影響をもたらす要因になっている。一方、女性は、低所得層であることが親同居の正の規定要因になっている。
- ・ この背景には、親同居男性は、「親族の義務」「同居者への金銭的援助」を親と同居する理由とする傾向が強い。一方、女性は、「自分の所得では生活が困難」をあげる傾向が強い。こうした男女の同居理由の差異が影響していると推察される。

5. 中年未婚者の老後への備え

(1) 65歳以降の生計

(図表 15) 65歳以降の生計の立て方

	公的年金	仕事による収入	預貯金	わからない	個人年金	企業年金	利息・配当金収入	生活保護	不動産収入	親族からの支援
単身男性 (n=495)	221 44.6%	232 46.9%	159 32.1%	95 19.2%	98 19.8%	80 16.2%	55 11.1%	40 8.1%	13 2.6%	0 0.0%
単身女性 (n=463)	250 54.0%	211 45.6%	196 42.3%	69 14.9%	95 20.5%	74 16.0%	23 5.0%	33 7.1%	11 2.4%	3 0.6%
親同居男性 (n=585)	293 50.1%	224 38.3%	186 31.8%	141 24.1%	105 17.9%	70 12.0%	70 12.0%	42 7.2%	23 3.9%	10 1.7%
親同居女性 (n=604)	326 54.0%	228 37.7%	257 42.5%	126 20.9%	116 19.2%	79 13.1%	31 5.1%	29 4.8%	12 2.0%	23 3.8%
合計 (n=2147)	1090 50.8%	895 41.7%	798 37.2%	431 20.1%	414 19.3%	303 14.1%	179 8.3%	144 6.7%	59 2.7%	36 1.7%
p値	p<0.01	p<0.01	p<0.001	p<0.01	n. s.	n. s.	p<0.001	n. s.	n. s.	p<0.001

(注) 1. 65歳以降の生計の立て方について、優先順位の高い項目を最大5つまで複数選択可。

2. 回答者数に対する選択者数の割合。

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) により、筆者作成。

(2) 公的年金の加入状況

- ・図表 7 より、正社員の比率は、単身男性 54.9%、単身女性 44.9%、親同居男性 43.2%、親同居女性 35.9%。正社員は厚生年金加入者であると考えられるので、親同居女性を中心に、厚生年金加入者の比率が低いことが推察される。

(図表 16) 国民年金 (第 1 号被保険者) の保険料の支払い状況

	全額支払中	免除中	未納中	合計
単身男性	98 71.0%	27 19.6%	13 9.4%	138 100.0%
単身女性	95 66.0%	40 27.8%	9 6.3%	144 100.0%
親同居男性	162 72.3%	44 19.6%	18 8.0%	224 100.0%
親同居女性	172 70.2%	61 24.9%	12 4.9%	245 100.0%
合計	527 70.2%	172 22.9%	52 6.9%	751 100.0%

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) により、筆者作成。

(2) 何歳まで働きたいか

(図表 17) 出来ることなら何歳まで働き続けたいか

	総 数				合計
	60 歳未満	60~65 歳未満	65~70 歳未満	70 歳以上	
単身男性	48 10.5%	71 15.5%	138 30.2%	200 43.8%	457 100.0%
単身女性	43 9.8%	88 20.1%	158 36.1%	149 34.0%	438 100.0%
親同居男性	50 9.4%	82 15.4%	165 31.1%	234 44.1%	531 100.0%
親同居女性	59 10.40%	121 21.4%	197 34.8%	189 33.4%	566 100.0%
合計	200 10.0%	362 18.2%	658 33.0%	772 38.8%	1992 100.0%

(注) 1. $p < 0.01$ 、2. 単一回答

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) により、筆者作成。

(3) 金融資産残高

(図表 18) 現在保有している金融資産残高

	ゼロ	100 万円以下	100 万 ~200 万円	200 万 ~300 万円	300 万 ~400 万円	400 万 ~500 万円	500 万 ~750 万円	750 万 ~1000 万円	1000 万円 以上	合計
単身男性	43 12.8%	43 12.8%	26 7.8%	20 6.0%	16 4.8%	4 1.2%	40 11.9%	11 3.3%	132 39.4%	335 100.0%
単身女性	45 14.4%	31 9.9%	36 11.5%	19 6.1%	22 7.0%	9 2.9%	44 14.1%	17 5.4%	90 28.8%	313 100.0%
親同居男性	53 13.7%	55 14.2%	36 9.3%	26 6.7%	21 5.4%	10 2.6%	43 11.1%	9 2.3%	134 34.6%	387 100.0%
親同居女性	65 16.7%	60 15.4%	34 8.7%	22 5.6%	30 7.7%	10 2.6%	44 11.3%	14 3.6%	111 28.5%	390 100.0%
合計	206 14.5%	189 13.3%	132 9.3%	87 6.1%	89 6.2%	33 2.3%	171 12.0%	51 3.6%	467 32.8%	1425 100.0%

(注) $p = 0.240$

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) により、筆者作成。

(4) 老後の社会的孤立リスク

(図表 19) 「頼れる人がいない」と回答した人の割合—「現在」と「老後」の比較

	「いざという時に経済援助をしてくれる人」がいない			「病気のときに看護・家事をしてくれる人」がいない			「悩みを聞いてくれる人」がいない		
	現在①	老後②	(②-①)	現在①	老後②	(②-①)	現在①	老後②	(②-①)
単身男性	76.8%	90.1%	13.3%	81.2%	90.1%	8.9%	76.0%	84.6%	8.6%
単身女性	54.4%	82.5%	28.1%	62.0%	79.3%	17.3%	46.0%	61.1%	15.1%
親同居男性	46.0%	85.8%	39.8%	44.4%	83.4%	39.0%	56.6%	77.9%	21.3%
親同居女性	26.5%	72.5%	46.0%	26.5%	70.7%	44.2%	33.1%	55.6%	22.5%
合計	49.4%	82.3%	32.9%	51.7%	80.5%	28.8%	52.2%	69.6%	17.4%

(資料) (公財) 年金シニアプラン総合研究機構 (2020) により、筆者作成。

＜中年未婚者の老後への備え＞

- ・親同居世帯の6割程度は、国民年金第1号被保険者であると考えられ、単身世帯の5割程度と比べて高い水準にある。
- ・国民年金第1号被保険者の保険料の支払い状況を見ると、単身男性と親同居男性において「未納中」が1割弱おり、高齢期の防貧機能が脆弱な可能性がある。
- ・高齢期の就労意向をみると、男女の間に差があり、「70歳以上まで」就労を希望する人の割合は、男性の4割強、女性の3割強である。
- ・社会的孤立に関連して、親同居世帯では、現在は親が「頼れる人」となる傾向が強いが、老後になると「頼れる人がいない」という比率が著しく高まる。親同居世帯では親亡き後、孤立防止策を考えていく必要がある。

＜求められる対策＞

- (1) 介護保険の拡充
- (2) 就労支援策の強化
- (3) 短時間労働者への厚生年金の適用拡大
- (4) 地域における相談窓口の拡充—社会的孤立に対する対応
- (5) 身寄りのない単身高齢者への支援—身寄り問題と家族機能の社会化

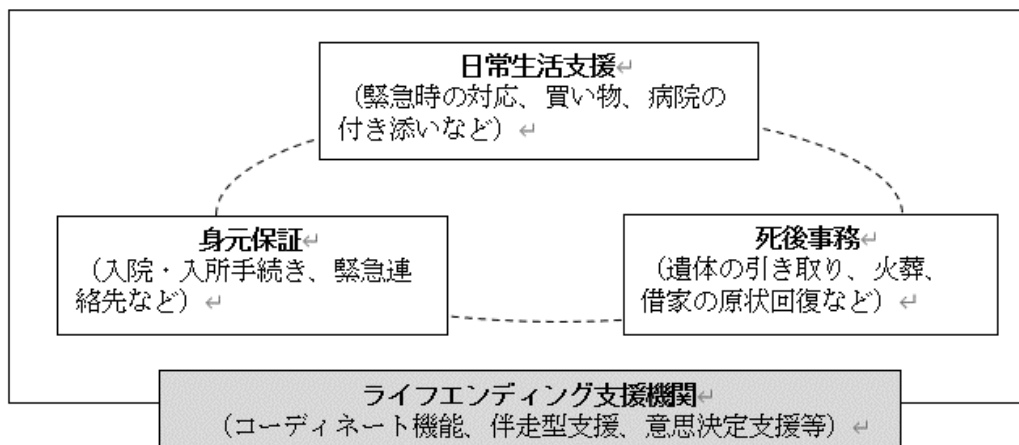
(図表 20) 初職の従業上の地位

	総数				40代				50代			
	正規社員	非正規社員	無職	その他	正規社員	非正規社員	無職	その他	正規社員	非正規社員	無職	その他
単身男性	357 72.1%	86 17.4%	14 2.8%	38 7.7%	195 68.9%	56 19.8%	13 4.6%	19 6.7%	162 76.4%	30 14.2%	1 0.5%	19 9.0%
単身女性	309 66.7%	120 25.9%	10 2.2%	24 5.2%	183 64.2%	83 29.1%	4 1.4%	15 5.3%	126 70.8%	37 20.8%	6 3.4%	9 5.1%
親同居男性	397 67.9%	127 21.7%	20 3.4%	41 7.0%	253 62.0%	109 26.7%	18 4.4%	28 6.9%	144 81.4%	18 10.2%	2 1.1%	13 7.3%
親同居女性	375 62.1%	188 31.1%	11 1.8%	30 5.0%	256 58.3%	153 34.9%	9 2.1%	21 4.8%	119 72.1%	35 21.2%	2 1.2%	9 5.5%
合計	1438 67.0%	521 24.3%	55 2.6%	133 6.2%	887 62.7%	401 28.3%	44 3.1%	83 5.9%	551 75.3%	120 16.4%	11 1.5%	50 6.8%
	n=2147、p<0.001				n=1415、p<0.01				n=732、p<0.01			

(注) 「その他」には、「自営業・家族従業員」「自由業・内職」「その他」が含まれる。

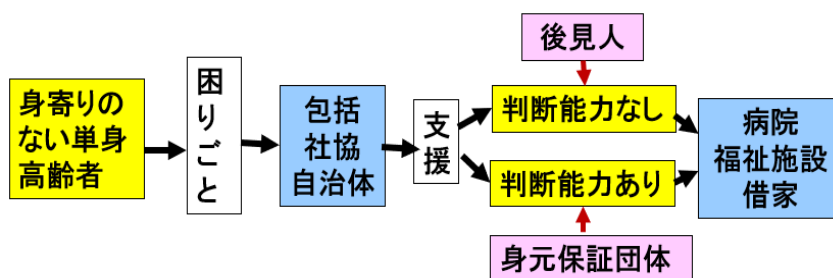
(資料) (公財)年金シニアプラン総合研究機構(2020)『第5回独身者(40～60代前半)の老後生活設計ニーズに関する調査』により、筆者作成。

(図表 21) 身寄りのない単身高齢者が人生の最終段階で必要とする支援



(資料) 藤森克彦・ライフエンディング支援研究会 (2020) 「身寄りのない単身高齢者に対する『人生の最終段階における包括的支援機関』の構築について—ライフエンディング支援機関の構想」(日本生命財団 40 周年記念特別事業 高齢社会助成委託研究事業『地域共生社会の実現にむけた地域包括支援体制構築の戦略—0 歳から 100 歳のすべての人が安心して暮らせる地域づくりをめざして』研究事業報告書、日本福祉大学受託調査、2020 年 3 月、187 頁)。

(図表 22) 身寄りのない単身高齢者への地域における支援の流れ



(資料) 筆者作成。

<ご参考資料>

(図表 23) 配偶関係別にみた社会的孤立の出現率 (単位：%)

	60歳未満				60歳以上			
	会話 欠如型	受領的 サポート 欠如型	提供的 サポート 欠如型	社会参 加 欠如型	会話 欠如型	受領的 サポート 欠如型	提供的 サポート 欠如型	社会参 加 欠如型
未婚	2.6	3.3	4.5	5.4	12.4	10.1	17.2	5.8
配偶者あり	0.7	0.7	0.9	8.4	2.0	1.3	3.2	5.2
死別	1.0	1.1	4.1	7.5	3.5	1.9	9.5	5.2
離別	3.4	2.6	2.6	6.7	7.8	5.7	11.2	7.3

(注) 「孤立」の定義は、下記参照。網掛け部分は、10%を超える箇所。

(資料) みずほリサーチ&テクノロジーズ (2021) 『社会的孤立の実態・要因に関する調査分析等研究事業報告書』(厚生労働省令和2年度社会福祉推進事業)、28頁に基づき作成。

(図表 24) 世帯類型別にみた社会的孤立者の出現率 (単位：%)

		会話 欠如型	受領的サポ ート欠如型	提供的サポ ート欠如型	社会参加欠 如型	
単身 世帯	高齢 (65以上)	男性	15.0	11.1	17.4	6.4
		女性	5.2	4.2	9.7	4.9
	非高齢 (0-64歳)	男性	8.4	6.9	9.4	6.0
		女性	4.4	1.7	2.2	6.9
夫婦 のみ 世帯	夫婦とも高齢	2.3	1.7	3.4	5.3	
	夫婦とも非高齢	1.1	1.5	1.3	6.9	
三世帯世帯 (子どもあり)		0.5	0.5	2.5	6.2	
二世帯世帯 (子どもあり)		0.6	0.5	0.9	8.1	
ひとり親世帯		1.8	0.4	0.5	11.3	
総 数		2.2	1.7	3.2	6.6	

(注) 1. 「孤立」の定義は、下記参照。「子ども」とは20歳未満の世帯員をいう。

2. 網掛け部分は、総数の比率よりも5%ポイント以上上回る箇所。

(資料) みずほリサーチ&テクノロジーズ (2021)、29頁に基づき作成。

*** 図表 23 と図表 24 における「孤立」の定義**

みずほリサーチ&テクノロジーズ (2021) 『社会的孤立の実態・要因等に関する調査分析等研究事業報告書』(厚生労働省令和2年度社会福祉推進事業) は、国立社会保障・人口問題研究所 (2017) 『2017 年生活と支え合い調査』の二次利用分析を行っているワーキングペーパーの付表をもとにまとめたものである²。

<会話欠如型孤立> : 会話頻度が2週間に1回以下

まず、「会話欠如型」については、「あなたはふだんの程度、人と会話や世間話をしますか」との設問に、「毎日」「2～3日に1回」「4～7日(1週間)に1回」「2週間に1回」「1ヶ月に1

² 西村幸満 (2021) 「単身女性の生活保障—家族と雇用に注目して」国立社会保障・人口問題研究所『ワーキングペーパー』No.46

回「ほとんど話をしない」の選択肢を置いている。このうち、「2週間に1回」「1ヶ月に1回」「ほとんど話をしない」のいずれかを選択すれば「会話欠如型の孤立者」とした。つまり、「会話欠如型」の孤立に陥る人は、2週間に1回以下しか会話をしない人である。

<受領的サポート欠如型孤立>：頼れる人がいない

「受領的サポート欠如型」は、「(1)子どもの世話や看病」「(2)（子ども以外の）介護や看病」「(3)重要な事柄の相談」「(4)愚痴を聞いてくれること」「(5)喜びや悲しみを分かち合うこと」「(6)いざという時のお金の援助」「(7)日頃のちょっとしたことの手助け」「(8)家を借りる時の保証人を頼むこと」「(9)成年後見人・保佐人を頼むこと」の9項目について、頼れる人の有無を尋ねている。

回答の選択肢としては、各項目について「頼れる人がいる」「頼れる人はいない」「そのことで人には頼らない」から1つを選択する。そして、9項目の全ての設問について「頼れる人はいない」を選択すれば、「受領的サポート欠如型の孤立者」とした。

<提供的サポート欠如型孤立>：手助けしない

「提供的サポート欠如型」については、「①家族・親族」「②友人・知人」「③近所の人」「④職場の人」の各人が、受領的サポートで設定した(1)～(7)の事柄について助けを必要とするとき、「その事柄をするかどうか」を尋ねている。

①～④の全てについて「7つ全ての事柄に関して手助けをしない」を選択すれば、「提供的サポート欠如型の孤立者」とした。

<社会参加欠如型孤立>：社会参加したいができない

「社会参加欠如型」については「(1)自治体や町内会」「(2)ボランティアやNPO」「(3)宗教団体」「(4)PTAや保護者会」「(5)の会やスポーツクラブ」「(6)職場内の会やグループ」「(7)同じ学校出身者の会やグループ」の7項目について、「1年以上前から参加している」「この1年以内に新たに参加するようになった」「参加したいができない」「参加する予定はない」を尋ねている。

7項目全てについて「参加したいができない」を選択した場合、「社会参加欠如型の孤立者」とした。

以上